

企業名：ミライト・ホールディングス

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。

報告書に記載のある、「つくる。まもる。」のように、通信インフラの構築と運用を基軸に情報通信分野での事業を行っていることが、社会的に不変の役割を果たしてきたことがわかる。そして、5GやDX、テレワークなどの推進が進む社会において、ますます役割が増すことも理解できる。

その中で、業績や利益体質を強化するだけでなく、「人間中心経営」を掲げ、社員にとっての「いい会社」を目指す姿勢や、ESG経営基盤を強化する姿勢など、社会における責任を果たしていく意識が確認できる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。

前提として、通信事業者向け通信建設工事シェアでは3割程度を占め、また5Gでは4Gに比べ基地局が大量に必要であり、基地局設置は未だに継続中であること、そして5Gの後は6Gなど今後も工事の需要が続いていくことなどを考慮すると、競争優位性は高いと考えられる。工事においてミライトは競合他社で代替可能であるものの、市場の需要の大きさを鑑みれば、ミライトの請け負う案件の多くを失うことは考えにくいということである。企業規模と業務内容を鑑みれば、競争優位性の高さは自明である。

その他の事業、すなわち通信建設工事以外の部分では、都の太陽光発電設備設置義務付けなどの影響から、関連工事を受注できる予想は立つため、ミライトの強みは存在するものの、やはり「ミライト固有の強み」はあまり見受けられないため、中長期的な観点からそのような事業の開拓を期待したい。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述の通り、通信建設工事は益々需要が拡大すると思われるため、競争優位性には持続性があると考えられる。

しかし、中長期的な観点からは、グローバル事業などの手薄さが不安要素である。今後期待したい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ミライトでは、5つの事業改革「5 Changes」を進めていくとしていて、Change 1は「人間中心経営」である。

既に日本各地に研修施設を多数保有しており、また企業内大学「みらいカレッジ」なども運営、資格取得に奨励金を支給するなど、社員のスキルアップを支援する体制は既に整っていて、それを今後さらに拡充していくと思われる。

そう言った意味では、人的資本の価値向上を達成することはできると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

まず、企業としてのビジョンや経営戦略は見えるものの、企業としてのアイデンティティや存在意義などを自ら定義し伝える部分がないように感じた。そう言った点で、何を目的に経営をするのかという部分が見えづらくなっている。

次に、社会や業界におけるミライトの強みや立ち位置などをあまり記載していない。そのあたりは特に建設業界など大企業がひしめきあう業界においては、企業の強みとして重要ではないか。